



第74回卒業証書授与式



卒業生が巣立ちゆく寂しさの涙雨も、最後は無事に送り出してくれるような天候になりました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、ありがとうございました。君たちが残してくれた伝統を、後輩たちが引き継ぎ、さらに発展させてくれると信じています。それぞれの新しい未来に、幸多きことを願っています。

【式辞より】

第104回全国高等学校野球選手権大会で、仙台育英高校を優勝に導いた須江航監督が、就任以来スローガンに掲げてきたのが、「日本一に招かれるチームになろう」ということです。「全ての取組が日本一にふさわしいレベルに達したとき、日本一から招かれる」という考え方だそうです。日本一になるには、もちろん強さも必要でしょうが、それに恥じないような日常生活も求められるでしょう。そのような練習や生き方ができているかどうかを、常に振り返りながら毎日を積み重ねた結果が、甲子園での優勝に結びついたのでと思います。

では、「日本一に恥じない日常生活」とはどのようなものなのでしょうか。

今から10年ほど前、当時低迷していた日本体育大学を、30年ぶりに箱根駅伝で優勝に導いた、当時の渡辺公二総監督は、チームの立て直しのために、グラウンドの草抜きやトイレのスリッパをそろえることなど、選手たちが軽んじていたことを、当たり前のこととして取り組ませることから改革を始めたそうです。

私たちは、何か目標に掲げたときに、ややもすると、そのことに直接つながることばかりに力を入がちです。もちろん、それも必要ですが、何事にも基礎があり、まずはそれをしっかりと身につけて当たり前になるようになることが大切です。そうすることで、人として成長し、感謝や謙虚さなど、多くのことを吸収できる下地ができるのだと思います。「凡事徹底」という言葉があります。これから新しい人生に踏み出す皆さんには、ぜひ、この言葉を胸に刻んでおいてほしいと願います。そして、自分らしい人生を歩んでください。

卒業生の保護者の皆様へ

あらためまして、お子様のご卒業、おめでとうございます。また、これまで本校の教育活動に対し、ご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。子どもたちにとって、本校での3年間は、これからの人生の心の支えになってくれれば幸いです。今後とも、よろしく願いいたします。